

Mrs. Chinaコンテスト参戦記 ～日本人がどう戦う？～

粕谷景子



(かすや・けいこ)
ICDフェロー
日本矯正歯科学会認定医
歯学博士

I. はじめに

2019年度、ICD新フェローの粕谷景子と申します。

昨年末、Mrs. Chinaといういわば中国人のためのコンテストに出場し日本大会優勝、世界大会第三位獲得という大変面白い経験をいたしましたのでレポートさせていただきます。

どうぞコーヒーでも飲みながらゆるくお読みいただけると幸いです。



普段は矯正歯科医として働いておりますが、不思議なご縁でMrs. Chinaコンテストの日本大会に出てみないかというお誘いをいただきました。実際ミセスでも(一度経験あり)チャイナでもないのですが、「ドレスを着てランウェイを歩くのは面白そう!」という軽い気持ちで予選に参加したところ、なんと予選通過・ファイナリストの7名に残ることができました。

Mrs. Chinaコンテストは出場者および審査員もほとんどが中国人のため、中国語で進行されます。私は日本人でカタコト程度の中国語は分かりますが、きちんと勉強したこともないのでここから苦戦が始まります。

Ⅱ. 事前調査

まず、勝つためには敵を知る！

審査員をチェックしてみると、ほとんどが年配の中国人です。

「彼らが求めるものは何なのか？」とインターネットや中国映画、YouTubeなどから徹底的に傾向と対策を研究しました。

普段の診療においても、患者さんのちょっとした出来事や趣味などはメモをとり、次回来院時にはその話題を提供することで信頼関係を築くことは多々あります。このような経験が役立ったのかもしれませんが。

Ⅲ. 衣装選択

事前調査により、中国人が好む色は「金！ 赤！ 白！」あたりかなと思います。

個人的にはシンプルなドレスが好きなのですが、ここはコンテストと割り切る必要があります。

12月に深圳で行われた世界大会では、日本代表として民族衣装をまとう必要があり、大変恥ずかしながら、大学の卒業式で一度着た振袖で参戦しました。本来着物はエレガントに着こなしたいところですが、中国人主催者よりこれではインパクトに欠けるとアドバイスされ、巨大なヘッドドレスを3時間かけて自作したのです（もともと矯正歯科医ですのでこんな時に大変役に立ちます）。



Ⅳ. スピーチ

1分の制限時間内で自己紹介をします。

審査員の記憶に残るためにはどうしたら良いか…、「そうだ、笑いをとろう！」。

二か国語以上でスピーチをすると加算点があるそうで日本語30秒、中国語30秒でシナリオを設定しました。

ではスピーチを再現します。

(日本語30秒)

「エントリーナンバー16番 粕谷景子です。私の名前は景子と言いますが女優の竹下景子さんと同じ漢字です。竹下さんと言えばクイズ番組で3択の女王として有名ですが、私は今回この7名ファイナリストの中で7択の女王になりたいと強く願っております！」(会場の日本人から拍手喝采)

(中国語30秒) *和訳

「エントリーナンバー16番 粕谷景子です。仕事は歯科医師をしております。

私の名前、景子の景は景德鎮（中国の陶磁器の名産地）の景と同じ漢字になります。

私の自慢は景德鎮の陶器のような、この白い歯です！（会場の中国人が爆笑）

はい、狙い通りです。」





V. 結果

本当に自分でも驚く好成績です！

2019年11月17日：日本大会優勝（東京にて開催）

歴代で日本人優勝は初めて

2019年12月20日：世界大会第3位（深圳にて開催）

歴代で日本人入賞は初めて



VI. これから

もともと中国の文化、特に食文化に興味があったのですが、今回の受賞をきっかけに日中友好の懸け橋としてさまざまなイベントでお手伝いさせて頂き、大変光栄に思っております。現在中国語を猛勉強中ですので、今後、歯科業界においても何かお手伝いできればと強く思っております。

さて近年は、毎年何かひとつワクワクするような大きなチャレンジしていきたいと思っておりますが、2020年はどんなワクワクを体験しましょうか！？

